

発展を目指す企業家のための経営指南役

No. 445

平成19年11月26日(月曜日)

社 外 重 役

Selected Clients & Professionals Relationship

発行)株式会社ノースアイランド
 東京本社)東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル5F
 Tel.03-3216-2004 Fax.03-3216-0439
 大阪支社)大阪市北区堂島2-1-31 ORIX堂島ビル5F
 Tel.06-4799-2004 Fax.06-4799-0539

経 営

新社長の年齢は平均55.9歳!? 世代交代期を迎え若返り進む

今年上期に誕生した新社長の平均年齢が昨年より1.2歳下がり、55.9歳になったことが日本経済新聞社の調査で分かった。55.9歳は過去最低の「若さ」だった。20-40歳代社長も6人に1人と増えた。調査は上場・非上場企業の合計約5700社で、社長交代企業数は693社。

07年上期の特徴は、創業家が世代交代期を迎えたことと、新興企業を中心に20-30歳代のトップが増えたことで若返り現象が進んだためという。大王製紙は創業者の直系の孫(42歳)が12年ぶりの返り咲きとなった。カプコン(ゲームソフト)は創業者の長男(42歳)、タカタ(自動車安全部品製造)も長男(41歳)が継いだ。

大きく若返ったのは新興市場のネット通販、e-ネットで28歳。同社の筆頭株主で家電量販店・ノジマ会長の長男である。

大企業では九州電力が14人抜きの大抜擢とはいえ62歳。住友金属鉱山は「非鉄業界では珍しい若返り」といわれたものの56歳で、大手は年功序列型の就任傾向が続いているようだ。それだけに技術畑出身のシャープの49歳は異例の抜擢であった。

一般論として知力、体力等を含めた経営者の理想的年齢は40代半ばから50代前半といわれる。したがって若返りは企業価値向上に寄与する要素に含まれてこよう。一方で、長期政権化による暴走や停滞を防ぐ企業統治のあり方も重要性を増してきそうだ。

税務会計

会計検査院が06年度決算検査報告 税金の徴収漏れ指摘額は約8億円

会計検査院が公表した2006年度決算検査報告によると、各省庁や政府関係機関などの税金のムダ遣いや不正支出、経理処理の不適切などを指摘したのは451件、310億6420万円にのぼった。

前年度に比べ、指摘件数は4.7%減、指摘額では31.4%減とともに減少したが、指摘件数は、報告書の掲載基準が現行と同じになった1978年度以降では昨年度の473件に次いで過去2番目に多い件数だった。指摘金額は過去7番目。

財務省に対しては、税金の徴収額の過不足8億2131万円が指摘された。指摘されたのは137税務署で、納税者252人から税金を徴収するにあたり、徴収額が不足していたものが244事項8億518万円、徴収額が多すぎたものが8事項1613万円だった。前年度は、109署において徴収不足が173事項、4億8558万円、徴収過大が9事項、3016万円だったので、徴収不足は約3億円ほど増加したことになる。

徴収が過不足だった252事項を税目別にみると、「法人税」が143事項(うち徴収過大2事項)でもっとも多く、以下、「申告所得税」69事項(同1事項)、「消費税」18事項(同1事項)、「相続・贈与税」19事項(同4事項)、「源泉所得税」3事項となっている。これらの徴収不足額や徴収過大額があった252事項については、会計検査院の指摘後、すべて徴収決定または支払決定の措置がとられている。

今週のキーワード

新社長の平均年齢

日経調査では新社長の80%強は50歳以上。中心年齢層は50歳代で、全体の半分近くを占める。20-40歳代は全体の16.8%を占めた。30歳以下の新社長は42人、全体の6.1%だった。女性新社長は昨年同期比で3分の1に縮小し上場企業はわずか2人だった。いずれも創業家世襲。06年上期は平均年齢が57.1歳で、05年より0.9歳上がっていたのは業績悪化を理由に、会長が社長に戻るケースが多かったためという。なお別データでは北米の社長の平均年齢は49.1歳。欧州では50歳。